

JBC 理事長就任挨拶

November 28, 2023



イマジニア株式会社

取締役会長 ファウンダー

神藏 孝之

PROFILE

▽1956年東京生まれ。1980年早稲田大学商学部卒業。1984年松下政経塾卒業(2期生)。松下幸之助塾長より直接指導を受ける。いったんは政治家を志すが、塾講師陣の一流経営者たちと接するうちに「無から有を生み出す」商売の面白さを実感、実業家への転身を決意。1986年イマジニア株式会社設立、代表取締役社長就任。1996年株式店頭公開。2006年代表取締役会長兼CEO就任。2009年東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム修了。2019年6月取締役会長ファウンダーに就任。2019年松下政経塾 塾長代理。2023年日本ビジネス協会(略称・JBC)第6代理事長就任。

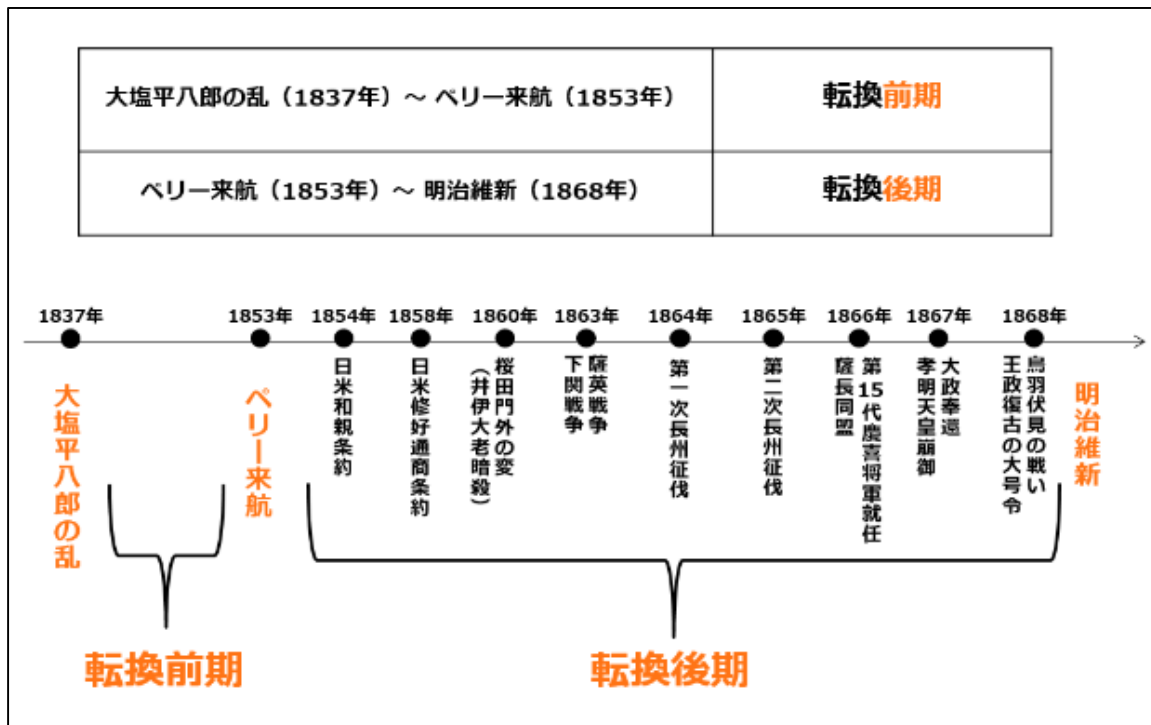
イマジニアの神藏でございます。まずは前理事長の加藤さん、コロナの一番大変な時に理事長を務めていただき、ご苦労様でした。高橋さんもコロナの時期を乗り切ってくれたと思います。本当にありがたいと思います。新ラウンジも2月にいよいよオープンします。加藤さんたちが、整えてくれたことで、次にスタートできると思います。

JBCは、澤田さん、平林さん、高橋さんなどの創業メンバー、河合先生、分林さん、太田さん、加藤さんなどのお力で、プライベートクラブとして2000年から23年間続いています。しかも、組織として資金が潤沢です。こんなクラブはなかなか存在しません。プライベートクラブというのは、だいたい10年くらいで消滅するというのが相場です。

現在は歴史で例えると

幕末の転換期に近い

今の時代は、歴史で例えると、幕末と同じような感じだと思います。幕末は、1837年に大塩平八郎の乱が起きました。ここから転換期の前期が始まります。その後、1853年にペリー来航がありました。ここから転換期の後期が始まり、1867年に明治維新がありました。転換期の前期から、日本はずっと落ちていて、危機的状況だったのですが、1860年に大老・井伊直弼が暗殺されるまで、誰もが江戸幕府が揺らぐと思っていませんでした。今、時代としては、転換前期まで来てしまっていると思います。



転換期のときこそ、

JBC のメンバーの力がより一層役立つ

2000 年に JBC のメンバーの方々と初めてお会いした時、普通の世の中にはいない人たちだと思いました。そして今、澤田さん、分林さん、平林さんたちに時代が追いついてきていると思っています。JBC のメンバーの人たちは、平時であれば、単なる「成功した人」で終わってしまうかもしれません。しかし、今は平時ではありません。

JBC が持っている潜在能力は貴重だと思っています。日本の社会では、平時の体制だと、どうしてもベンチャー系の人たちや JBC の人たちは、（お金を持っているが）隅に置かれてしまう傾向があります。霞ヶ関と大手町の人たちを見ると、ベンチャー系の人たちとは、言語形態が違います。両者の間に交わりがないという問題

点があります。

30 年間、日本は長期停滞になっています。これは「金融緩和すればいい」「財政を使えばいい」という簡単な話ではありません。澤田さんのように、多少の矢玉に当たっても倒れないということが大事だと思います。JBC の人たちは、ただじゃ死なない人たちだと思います。

高橋さんは、拡大破滅型ビジネスのモデルではダメだということで、蓄積型ビジネスに変えました。それがアパマンのもとになりました。こんなに字頭が良くて、計算の早い人がいるのかと、衝撃を受けました。

分林さんが寄付してつくった立命館の学生寮を見に行きましたが、とても感銘を受けました。

私が塾長代理を務める松下政経塾は、松下幸之助が 1979 年に私財を投じて創設した私塾ですが、今でも分林さんのような人がいるということが大事だと思います。

平林さん含め、みんなでスイスに行ったことがあります。その時に、平林さんは、富士山の登山鉄道を作ることを考え付きました。富士山を世界遺産にして、登山鉄道をつくろうと考えたのです。考えて、やろうとするのがすごいです。こういう人は、めったにいないと思います。登った人は分かっていると思いますが、富士山の山小屋は江戸時代からの利権で管轄されています。史上最低の観光設備といえます。その既得権益に対して、敢然と対抗していて、フィフティフィフティのところまで戦っています。

河合先生が二代目の理事長をしていた頃は、まだ足場が固まっていませんでした。IT バブルが崩壊し、JBC はまだガタガタしていました。捕まる人も出ていました。おっちょこちょいもいます。そこで、守護神として出てもらいました。河合先生がやった中で、もっともすごいと思ったのは、JBC の CSR の奨学基金です。

2011 年に東北大震災が起きましたが、当時の宮城県の村井嘉浩県知事は、私の松下政経塾の直系の後輩でした。私は村井知事から「神藏さんは小宮山宏先生(第 28 代東京大学総長)と親しいだろう。彼を座長にして、一緒に復興委員をしてくれないでしょうか」とお願いを受け、宮城県震災復興会議が立ち上がりました。

震災により、生活費がなくなってやめていく高校生も多くいました。予算が 19 兆円出ましたが、

実際に、お金が高校生の手元に渡って生活費になるのは、翌年 4 月ということでした。その年の夏休みで学校を辞めざるをえないという学生もいました。その時に、もっとも役に立った奨学金が、河合先生の CSR 基金です。それによって、石巻高校 70 人、気仙沼高校 30 人で、合計 100 人を救いました。村井知事は「そんなことができるのか」と感激していました。平等性や公平性を重視しすぎると、時間がかかってしまいます。区役所からもらう奨学金の場合、例えば 10 万円の奨学金であれば、50 万円くらいの事務コストがかかるそうです。それくらい区役所の職員などのコストがかかります。それに対して、河合先生たちは自分でやっているのです。猛烈に早いのです。今までトータル人数で 721 人に対して奨学資金を支給しています。

また、熊本震災の時も支援しました。熊本県の知事は、蒲島さんという東大の教授で、私の松下政経塾の時のゼミの先生でもあります。蒲島さんが驚いたのが、熊本県庁とは審査能力が違う点でした。また、JBC でやっている、ピンハネされません。事務経費もかかりません。それでうまく回っています。

徳を積めば運気が上がる

運がいい人には絶対に助け舟がくる

本日、皆さんにお配りした小冊子『運と教養』の中で、澤田さんは「運」についての話をしています。

※小冊子『運と教養』↓↓↓

https://10mtv.jp/kamukuratakayuki/pdf/10MTV_untokyoyo.pdf

松下幸之助に言わせれば、「運が良い人は、徳を積む人」「徳を積むとは、他者に自分の持っている能力を 100%使い切ること。自己犠牲を払った人だ」と指摘しています。

澤田さんとは、JBC の前からの長い付き合いです。今は、モンゴルの金鉱に投資しています。澤田さんはこういうおもしろい人です。いつも思うのが、澤田さんはなぜこんな金運がついているのか、ということです。それは、徳を積んでいるからだと思います。

澤田さんの投資確率が極めて高いです。普通、モンゴルの金鉱に投資するという話があれば、詐欺師の話に決まっています。しかし、彼がやると、確率 7 割くらいで当たります。

澤田さんはよく投資先などを見抜くための 3 原則を指摘されます。第 1 原則は「経営者の人間性が良いこと」。第 2 原則は「商売が時流に乗っていること」。第 3 原則は「オフィスや工場がきれいであること」です。

この澤田さんのご指摘で思い出すのは、田口佳史先生の道元についての話です。田口先生は、道元の「ひとつひとつを丁寧に、真心込めて」という思想が、まさに日本人の原点だと指摘しています。

小冊子『運と教養』には、澤田さんの話も田口佳史先生の話も出てきます。その他にも、東大の柳川範之先生の MBA についての話も出ています。柳川先生は MBA の何がすごいのかについて指摘しています。1 番目は「人脈ができること」です。2 番目は「ハーバードビジネススクール卒という最低限の資格ができること」です。ハーバードビジネススクールを出ているからといって、成功するわけではありませんが、いろいろと説明する必要がなくなります。3 番目は「ディスカッション能力がつくこと」です。

アニマルスピリットがあるベンチャー系の人たちと、霞ヶ関・大手町の人たちとの横串のネットワークをつくりたい

JBC は非常に勉強になる人が多いと感じています。澤田さんから 10 分くらいの話を聞いた方が、少なくとも早稲田のビジネススクールを受講するよりもよほどいいです。短時間で耳学問ができるというのが JBC の特徴です。

さきほど、時代が JBC のメンバーの皆さんに追いついてきたという話をしました。幕末～明治維新にかけて、勝海舟、西郷隆盛、坂本龍馬、伊藤博文、山縣有朋などの人物が活躍します。しかし、彼らは幕末～明治維新の動乱がなければ、タダの貧乏侍でした。日本一の思想家になった福澤諭吉も、豊前中津藩の下級の侍でおしまだったでしょう。

このように、状況が大きく変化する時は、人の評価そのものが変わるのだと思います。JBC の

人たちは、これだけ能力があるにもかかわらず、これまでメジャーストリームの中で、あまり評価されてこなかったと感じています。ここがアメリカとの圧倒的な差です。

イーロン・マスクも、南アフリカ出身で、父親から DV を受けて、カナダに逃げました。カナダの高校に行って、スタンフォード大学に行きました。ベゾスにしてもジョブズにしても、キューバ移民だったりレバノン移民だったりします。

これからの日本で大事なことは、「アニマルスピリット」だと思います。アニマルスピリットというのは、受験勉強を一生懸命やってきたというレベルの話ではありません。「自分で身をもって、リスクテイクして、死の谷を渡って、多少の矢玉に当たっても倒れず、生き残った経験をする。一度生き残っても、何度も痛い目に遭うけど、それを経験値として、前に進むメンタリティ」というようなものだと思います。

この部分が、霞ヶ関、大手町の人たちと、JBCの人たちとの圧倒的な差だと思います。今の時代は、開成や灘など、筑駒の出身者の人たちが、メインストリームにいきますが、しかし、それは平時の時代の体制です。

これから乱世の時代に入った時、ようやく JBCの人たちの生き様、生きてきた経験、ノウハウが役に立つはずですが。勝ち方はいろいろあります。勝った人が偉いというきわめて当たり前の社会に戻さないとダメになります。

私が今回、やりたいと思っているのは、霞ヶ関と大手町たちと JBC のメンバーたちとの共通言語をつくることです。両者では、言語体系や所

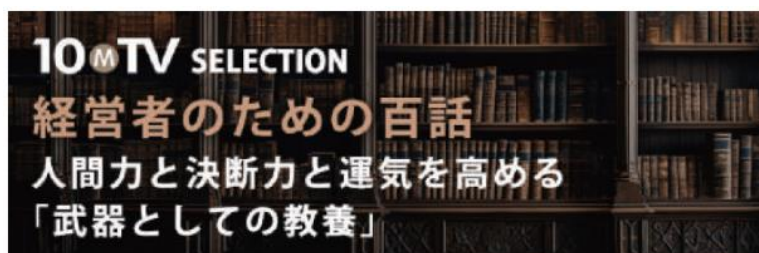
作が違います。澤田さんが言っているようなことを柳川先生の言葉で翻訳する。あるいは田口先生の言葉で翻訳する。彼らが理解できる言語に翻訳するということをやりたいと思います。

また、官邸官僚の和泉洋人さんや、外交を一手に引き受けている秋葉剛男さんなどを JBC にどんどん投入していきたいと思います。そういう人たちで、JBC のアカデミアを作ろうと思っています。その際、集める官僚たちは、スーパー官僚じゃないといけません。ベンチャースピリットを持った人たちと、官界の中で最もスーパーな人たちとの組み合わせをしたいと思います。

いずれにしても、加藤さんがコロナもあった一番しんどい 4 年間で、いろんな問題を綺麗にしてくれた後に理事長に就任させていただくことになります。高橋さんとも、連動を取りながら、できれば JBC を次のステージにもっていきたいと思っています。

どうも長々とありがとうございました。

以上



経営者の決断は、常に大きな可能性とリスクの分かれ道です。いかにすれば、正しい判断を下して、運をつかむことができるのか。そのときに必要となるものこそ、決断の基盤となる「人間力」であり「洞察力」でしょう。それらを高めてくれるものこそ、まさに「武器としての教養」です。

必ず役立つ珠玉の講義を集めました。
ぜひご覧ください。



https://10mtv.jp/pc/content/genre_detail/?category_id=7



●本件に関するお問い合わせ先

イマジニア株式会社 テンミニッツTV編集部

✉ 10mtv_tk@imagineer.co.jp



※ メール 回答時間 10:00~11:45, 12:45~17:00 (祝祭日を除く月曜~金曜)